



214号

2016 / 6 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



「ウイグル族の少女」2015年7月 中国新疆ウルムチ市 馮学敏^{フォンシェンミン}(中国写真家協会会員・日本写真家協会会員・世界華人写真家連盟副会長)
学校の授業が終わって家に帰る途中のおしゃれで可愛らしい民族衣装の少女に出会った

北京には大きな本屋さんが2軒あります。1軒は、古くからある王府井の王府井書店、もう1軒は、西単の北京図書大廈です。

王府井書店は、歴史が古く、1949年創業で、中華人民共和国と一緒に歳を重ねています。2000年に、王府井街の改修と同時に、地上6階、地下1階、売り場面積1万㎡以上の今の建物が出来たそうで、各階が分野別になっていて、無い本は無いと思えるほど、品揃えは豊富です。

北京図書大廈は、2002年頃でしょうか、私が北京に行き、間もない頃、「新しく出来た本屋さんに行こう」と、連れて行かれました。こちらは、地下一階から地上四階までですが、総床面積が5万㎡以上で、書籍は図書館のようにゆったりと展示してあって圧巻でした。そして、立ち読みしている人が大勢いました。

書棚の影で、床に座り込んでじっくりと読書する人に、近くで作業する店員さんは何も言いません。容認されているようでした。日本でも最近、特別のコーナーを設けて、買う前の読書も可能になりましたが、北京では、椅子こそありませんが、買わない本の読書は随分前から許されていたようです。

もう一つ、大型書店で驚いたのは、一人ひとりの購入点数の多さです。米国など外資系の倉庫型スーパーなどで使われている、大きな金属製のカートに本をいっぱい入れて、支払いカウンターに並んだり、更に本を探したりしている人たちをみかけました。

我々も一度、北京の書店で、中国語クラスの教科書を買に行き、店頭にあるだけの教科書を買いましたが、我々が買う十数冊の本など、物の数ではありません。買い物カートに入った本は、一見して、ジャンルも程度もまちまちで不思議な選択でした。友人に訊いてみると、「多分、田舎から、友人たちに頼まれて買って帰るのだろう」との説明でした。

今から4、5年前に、陝西省の延安へ行った時、地図が欲しくて、本屋さんはどこかと訊いたら、「本屋は無い」と言われてびっくりしましたが、北京の本屋さ

んの光景が目に見え、納得してしまいました。本の専門店がなくて、雑貨屋さんなどに僅かな本が置いてあり、読みたい本があれば、頼んで買って来てもらっていた田舎にも、本のネット販売が導入されて、爆発的に普及したようです。

田舎ではまだ、本屋のない市もあるようですが、北京には本屋さんが溢れています。新しく出来た、洒落たお店があるかと思えば、間口1間、奥行き2間ほどのお店に、社会科学の専門書をびっしり並べたお店があったりします。ほとんどの本屋さんが値引きをしてくれます。それで競争も激しいのでしょう。地下鉄五道口駅の近くに、正面がガラス張りのきれいな本屋さんがありました。近くには大学も多くて、かなり流行っていたようですが、昨年、8年ぶりに前を通ると、本屋さんは無くなって、若者向けの衣類を売る店になっていました。韓国資本だと聞いていましたが、持ちこたえられなかったようです。

日本では、再販制の影響で、新刊書は定価が保たれてきました。やっと最近になって、新しい本の安売りが時々は見られるようになりましたが、北京では値引き・安売りは自由のようで、甚だしい時は、リヤカーに本を積んできて、歩道上で、1冊どれでも1元とか5元とかで売っています。私はこのリヤカーの本屋さんと、ハリーポッターの第一巻を5円で買いました。

北京のあちこちに新華書店と言うのがあります。これは国営で、中国国内いたるところにあります。いかにも国営然として、西安の新華書店も、雰囲気是北京の新華書店とほとんど変わらないので、可笑しくなりました。国営企業はどこでも同じです。北京市内新街口の新華書店で、剪紙(切り紙)の本を見つけて、パラパラめくってみたら、中の写真で知った方のお顔を見つけました。‘わんりい’代表の田井さんとそのお仲間たちでした。当時はお目にかかって間もない頃でしたが、懐かしくて思わず声をあげてしまいました。著者を見ると、これもお名前を聞いたことがある周路さんだったので、飛びついて買いました。

zhī zhī zhě bù rú hào zhī zhě
知之者不如好之者

これ 之を知る者は之を好む者に如かず 〈雍也第六〉

うえだ あつ お
桜美林大学名誉教授／孔子学院講師 植田渥雄

この表題に続く言葉は「好之者不如乐之者(hào zhī zhě bù rú lè zhī zhě)」(之を好む者は之を樂しむ者に如かず)です。物事に対して、しっかりした知識を持つことは大事なことです、ただ知っているというだけでは不十分です。好きになることにはかなわない。好きになることも結構ですが、それを樂しむことにはかなわない。孔子の言わんとすることはそういうことですが、では何について言っているのか、つまり「之」が何を指すのか、この文だけでははっきりしません。『論語』にはこういう例が数多く見られます。『論語』は多くの場合、弟子たちとの対話記録なので、その場にいた弟子たちとの間では、敢えて言わなくても暗黙の了解があったものと思われます。

一方、『論語』の他の所では「仁を好む」「義を好む」「礼を好む」「徳を好む」「学を好む」等の言葉が盛んに出てきます。恐らくこのような徳目について語ったものに違いありません。「仁」「義」「礼」「徳」「学」、どの言葉を持ってきても当てはまります。「仁」とは人間らしい優しい心を持つこと、「義」とは人のために尽くすこと、「礼」とは秩序ある行動をとること、「徳」とは気高い心を持つこと、「学」とは謙虚に学ぶこと、何れにしても、人として当然目指すべき目標です。この場合の「好む」とは、これらのことを他から迫られてやるのではなく、自ら好んで行うということです。

では、孔子は自分自身のことをどのように見ていたのでしょうか。

「我非生而知之者。好古，敏以求之者也(wǒ fēi shēng ér zhī zhī zhě. hào gǔ, mǐn yǐ qiú zhī

zhě yě)」(我は生まれながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求むる者なり)〈述而第七〉。私は生まれながらにして物事が分かっているわけではない。自ら進んで歴史から学び、これを怠りなく追求しているだけである、と。ここでも「之」が何を指すか明言していませんが、「仁」「義」「礼」「徳」等、何れの語を当てはめることも可能です。「古を好む」とは、自ら好んで過去の歴史から学ぶということです。

では、「樂しむ」についてはどうでしょうか。孔子は自分のことを、こう評しています。

「其为人也，发愤忘食，乐以忘忧，不知老之将至(qí wéi rén yě, fā fèn wàng shí, lè yǐ wàng yōu, bù zhī lǎo zhī jiāng zhì)」(其の人と為りや、発憤して食を忘れ、楽しんで以て憂いを忘れ、老いの將に至らんとするを知らず)〈述而第七〉。やるぞと思えば食事も忘れ、楽しんでやれば嫌なことも忘れ、老いが近づいていることすら気づかない。私はそんな人間だ、と。

やるべきことを楽しむことができる人。孔子は楽しみ方を、実に見事に心得た人でもあったようです。

話は少し飛びますが、お馴染みの『ピーターパン』の作者ジェームス・バリーは「幸福の秘訣は、やりたいことをすることではなく、やるべきことを好きになることだ」と言っています。バリーは19世紀末から20世紀前半にかけて活躍したイギリスの童話作家ですが、奇しくもこの言葉は、2500年前、春秋の世を生きた孔子の言葉に重なって見えます。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

【前回のあらすじ】昔、南宋の時代、陳州(河南省淮陽)に母親と住んでいた李元は古里から父親・李^リ認^イの赴任先である杭州へ行く途中の呉江で、子供たちが金色の目をした朱色の珍しい子蛇をいじめていました。李元はその子蛇を子どもたちの手から救い出して手当てをし、湖に放しました。その後李元は父親のところではばらく滞在し、再び古里の陳州に戻る途上のことです。船が呉江に着いた頃は日が暮れ近くでしたので、李元は船を岸边に止まらせ、ここで一晩休むことにしました。自分は陸地に上がり、小高いところ建つ〈垂虹亭〉に登ると、欄干に持たれて周りののどかな風景を嘆賞していました。

李元は欄干に持たれ周囲の景色を眺めて目を楽しませていましたが、ふと気が付くと目の前に青い服の童子が立っています。童子は李元にお辞儀して、一枚の名刺を手渡しながら告げました。

「主人が私に名刺を持たせまして、『先生にお目に掛かりたい』と申し上げるようにとのことです。お出で頂けますでしょうか」

李元は

「お前のご主人は何処に居られるのだ？」

「この橋の近くでお待ちしております」

李元は名刺を見ると、表に「学生・朱 謹んでお出でをお待ちしております」と書いてあります。

「お前のご主人は人違いしているのではないか」

「間違いはないと存じます。先ほど先生のお姿をご覧になられて、是非お目にかかりたいと申しております」

「私は江左(長江下流の東)から来たもので、この辺りには知り合いは一人もいないし、もともと朱という友人もいないのだけれど」

「いいえ、あなた様がまさしく李^リ認^イ殿の息子・李元様であると知ってお目にかかりたいと申しておりました」

とその時、もう一人、明眸皓齒、眉目秀麗な青年が李元の目の前に立ちました。青年は李元に深々と

お辞儀をしてから言いました。

「このような時間に失礼をいたします。私が朱と申す者です。私の父は李元様のお祖父とかつて親交がありました。父は先生が杭州よりお帰りになされると知り、私に『お待ち申し上げて、是非とも拙宅へお越しをお願い申し上げます』とのことでございます」

青年が誠意を込めて話す様子に李元は承諾し、青年の後に付いて、垂虹亭を出ると、垂虹亭の向かいにある橋を渡りました。岸边には綺麗な船が待っており、青年について船に上がった李元は目を見張りました。船は李元が今まで見たことのないような豪華な船で、その船上には容貌魁偉な者達がそれぞれ目も綺(あや)な服を着て立ち並んで李元や青年を迎えました。そして船内の装飾は五色の花模様を施し、敷物も飾り物も豪華を極めた珍しいものばかりです。

李元がそれらに気を取られ見とれていきますと、船が動き出しました。船は飛ぶ如く進み、船の両側は浪しぶきが湧き立ってまるで雪が吹き飛び、舞い散るかのようです。そしてあっという間に岸へ着くと、すでに沢山の人々が並んで二人を待っていました。李元は陸へ迎え上げられて辺りを見回しますとそこは青々と葉を繁らせた巨木が亭々と枝を広げて立ち並んでいました。

「さあ、どうぞお籠へお乗りください」と、朱青年に促されて見ると、目の前に二挺の藤の籠が待っていました。籠は、紫の長衣に銀の帯を締めた十数人の者が傍らに付き添い、松林を抜けて進んで行きます。そして、一里も行ったかと思う頃、籠が止まりました。

「到着いたしました。どうぞお降りくださいませ」

と告げられました。そして李元が籠から降りると、緑の山を背負い、青い湖水に面した宮殿が目の前に見えます。湖水の上には橋が架けられ、その橋には花紋が彫刻された石欄干が向こうの宮殿まで並ん

でいます。そして、橋の向こうには瑠璃煉瓦で葺かれた宮殿の屋根が眩いばかりに輝いて見え、宮殿の前の雄大な朱門には金文字で「玉華宮」と書かれた扁額が掛けられています。

李元は導かれるままに橋を渡り、宮門をくぐりました。門の内側の景色はまさに仙界に入ったような感じでしたので李元はだんだん緊張してきました。

「王様の命令によりまして、謹んで先生をお迎えいたします」

宮殿の入り口では、紫色の衣服に黄金の帯を締め、手に花模様の笏を持った人が李元に向かって挨拶しました。

「王様とは、どなたでしょうか。ここは一体どういうところなのでしょう」

李元は朱青年に聞きましたが、朱青年は

「先生が御殿へ参られましたのですからすぐ分かります。先ずこちらへお入りください。父の招きですから、どうぞお怪しみくださらなくてください」

李元は朱青年について長い廊下を抜け、更にきざ橋を上ると石畳の大広間に出ました。そこには、宝冠を頂き、広い袖を垂れ、朱の靴を履き、手には玉で作られた笏を握った老翁が、華麗な衣服をまとった10数人の人々に囲まれて玉の椅子に座っている姿がありました。

この老翁は、李元の姿を見るとすぐ立ち上がり前に進んで李元を迎えました。

「この方がきっと王様と呼ばれている方に違いない」

李元は考え、急いで跪き、深々とお辞儀しました。老翁はお付きのものに命じて李元を抱え起こし、

「お出迎えせず先生をお呼び申しあげ恐縮しております。どうぞお赦し下さいますようお願い申し上げます。またこの度は幸いにご来臨頂き心から有難く思っております。どうぞこちらへお座り下さい」

李元は「はい」「はい」と答えるばかりで、言われるままお側のもの後に付いて奥の座席に着きました。

「私は無位無官の貧乏書生でしかありません。どうして王様は私をお側にお呼びになられるのでしょうか」

老翁は再び頭を下げて言いました。

「先生は我が一家にとりまして大恩があります。そのような訳で長男に命じて先生をこちらにお迎え申し上げた次第です。どうぞ遠慮なくお掛けください」

李元の顔に不思議そうな表情が浮かんでいるの

を見た老翁は、「さあ、王子を呼んで参れ。改めて恩人にお礼を申し上げさせるのじゃ」と言いました。

しばらくすると、屏風の後から数人の官女たちが、頭に小さな冠を頂き、真紅の衣を纏い、玉の帯を巻いた少年を取り囲むようにして現れました。少年が老翁の側に立ちますと、老翁が

「これは我が子じゃ。先日呉江の水際で遊んでいた

際、いたずら盛りの子供たちに捕まってしまった。若し先生が助けて下さらなければこの子の命はなかったであろう。我が一門一同深く感謝申し上げ、先生のご恩に報いたいと深く肝に銘じたのだ」

老翁の話が終わると、その少年は李元の前に進んで膝まづき深々と頭を下げてお礼の言葉を述べました。李元も慌ててお辞儀を返ししながら、やっと事情を呑み込みました。

「先日私が救った小蛇は、目の前の少年なのか。今日、私が拝見した華麗な宮殿、この世のものとは思われない景色、豪華な船や籠、美しく装った人々。全てから受ける印象は人間界のものではない。今私は竜宮にいるように感じるが。そうなのか。私は竜王の息子を救ったのか」

李元は瞬時に様々なことを思い巡らせるのでした。

(続く)



満柏 画

九牛の一毛

私の調べた諺・慣用句 50 (最終回)

三澤 統

たとえば会社で、大きなプロジェクトが成功したあとの、祝賀会の席上の挨拶で、功労者が謙遜し、「このプロジェクトの成功は、私の貢献度などは九牛の一毛にしか過ぎません。ひとえに皆様の協力のたまものです」 などと言う人がいたりしますが、今回は、この“九牛の一毛”がテーマです。

辞書には九牛の一毛の意味がそれぞれ次のように載っています。

▲ 小学館 デジタル大辞泉：

「九牛の一毛 “漢書” 司馬遷伝から、多くの牛の中の1本の毛の意。多数の中のごく一部分。取るに足りないこと」

▲ 小学館 中日辞典：

「九牛一毛 jiǔ niú yī máo 九牛の一毛 大多数の中のごく少数」

漢の武帝の時代、匈奴征伐に向かった李広利の支援として李陵が五千の兵を与えられ匈奴に向けて出発しました。武帝は李陵が李広利と合流する前に、匈奴との国境に深く攻め入り、士気旺盛であると聞いていました。この時多くの大臣たちは皇帝にへつらい「皇帝は賢明で、人の用い方が巧みである」と言って祝賀しました。ところがその後、李陵が戦いに負けて投降したと聞くと、武帝は非常に怒り、はじめは祝賀をした大臣たちまでもが逆に李陵を不忠であると叱責しました。この時司馬遷は黙ったままでしたので武帝は司馬遷に「お前の意見はどうなのだ」と訊きました。

司馬遷は率直に次のように述べました。「李陵はわずか五千の歩兵で匈奴の八万の騎兵に取り巻かれたのです。それでも十日以上戦いをもちこたえ、一万以上の敵兵を討ち取ったのです。私は、李陵は優秀な将軍であったと思います。食糧も尽

き矢もなくなり、帰路も塞がれて戦闘を停止せざるを得なくなったのであって、投降したのではなく、反撃の機会を待つために陣を引いたのだと思います。李陵の功労は大きいと言えます」

武帝は司馬遷が李陵を弁護したのを聞くと、激怒し司馬遷を投獄してしまいました。翌年、李陵が匈奴に寝返って匈奴の兵を訓練しているという誤報が伝わりました。武帝は誤報をそのまま信じ、李陵の母親と妻子を殺してしまいました。また杜周という廷尉(古代中国の官命)が皇帝に迎合して、司馬遷を皇帝を誣告したという無実の罪に陥れ、司馬遷は残酷で屈辱的な腐刑(宦刑＝男性自身を切除してしまう刑)に処されました。

司馬遷は、一時は自殺を考えました。しかし、自分の様に地位の低い者が死んだところで、多くの裕福で権力を持つものたちの目には自分など九牛の中の一毛にしか過ぎず、同情を得ることもなく、嘲笑されるだけだと思い直し、腐刑の屈辱に耐え、命がけで終にその後の中国歴史書の模範となるような“史記”を完成させました。

司馬遷は“史記”を著述するに至った気持ちを友人・任少卿に手紙で伝えていました。後世の人たちがその手紙の中にでてくる“若九牛亡一毛”(九牛の一毛を亡くすがごとし)という言葉を生かし成語としました。



滿柏 画

私の漫画「カラズン」に込める想い

シェパ サミラ

翻訳：菊岡伸一

‘わんりい’ 4月号で掲載を予告した、フランスから日本に来て漫画の勉強をしている、シェパ・サミラさんの漫画「カラズン」*を本号より、‘わんりい’の折り込みとして皆さんにお届けします。抜き取って保存頂くと最終的にサミラさんの作品としてまとまる筈です。折り込み掲載にあたって、この漫画に込めた思いと、漫画を理解する一助にと思い登場人物のキャラクターについての説明を寄稿頂きました。

*「カラズン」はアルジェリア語でサクラの意

私の名前はシェパ・サミラといいます。家族のルーツはアルジェリアのカビル(Kabyle)です。カビルは、アマズイーという民族に属しています。ですから、私はカビルの血、モスリムの信仰をもっています。

アマズイーはベルベル人と呼ばれていますが、ヨーロッパにたびたび進出した歴史から「ベルベル」という語は暴力と結び付けられ、差別的なイメージがあります。しかし、本当はアマズイーは平和な民です。

私はフランスで生まれたので、アマズイーとフランスという、異なる二つの文化の中で、それを自然のこととして育ってきました。私は、日本の皆さんにアマズイーとカビルのことを知ってもらいたいと思い、漫画「カラズン」を発表します。

アラビア語で「桜」を意味するカラズンは、人々の争いをやめさせるために、自然の女神によってジャナという星から送られてきました。カラズンは、天空の神レイと、大地の女神セイの娘です。

漫画の主人公にカラズンという名を選んだのは、日本に来て「花見」に行き、桜の美しい光景を見たからです。咲き誇る桜には自然の恵みと美が集約されています。花見は、私には自然の恵みと美を祝う素晴らしい一日になりました。ジャナは、アラビア語で「天国」という意味です。ジャナは、争いのない平和な世界です。この地上でもそれが実現できないものでしょうか？

カラズンは、アマズイーのシンボルをつけてい



ます。漢字の「木」の象形文字に似たシンボルは、平和を表しています。

今日、テロリズムがモスリムに否定的なイメージを与え、恐れを抱く人さえいます。この物語を通して、私たちモスリムの本当の姿はテロリズムとはまったく無縁な、平和な民であることを伝えると共に、温かく、穏やかな私たちの家や故郷を知ってほしいと願ってます。

漫画「カラズン」の中で、私は人々の争いについて考え、その解決方法を探ります。

前回に引き続き、鷹島の観光スポットを紹介したい。

■宮地獄史跡公園

鷹島には多くの元寇記念碑がある。島の東北部にある「宮地獄史跡公園」は必ず訪れたいところであるが、公園内には大きく立派な元寇記念碑がある。玄界灘が一望できる、鷹島で一番高い標高116mの絶景の高台にあり、昭和45年に史跡公園として整備された。元寇で戦った両軍の将兵と亡くなった島民の霊を慰めるために建立されたものだという。その地には同石碑の他、宮地獄神社、愛宕神社、五輪塔などがある。

2～3度訪問された友人のMさんが作られた小冊子「13故郷ウオーキング」には、〈入り口から元寇碑まではかなりあるが、その間に色々な碑や見どころがあり、りっぱな公園である。この元寇碑の裏側には漢字カタカナ交じりの格調高い読み難い文字がびっしりと刻まれている〜〉と紹介されている。この碑は、大正4年に造られ阿翁^{あおう}(島の北部にある地名)にある「猿田彦神社」境内に設置された。従ってちょうど100年経つことになる。碑の文字が読みづらいのも無理はない。そして本公園完成後、昭和51年にこの地に移設された。松浦市の2012年の市報によると、大正4年以降毎年元寇の犠牲者を慰霊する「元寇記念祭」が開かれている。記念祭は松浦市長をはじめ関係



阿翁石を使った石像。鷹島モンゴル村駐車場にある「必勝モニュメント」
(まつうら観光物産協会HPより)

者により本公園の石碑の前で仏式と神式で交互に行われているようだ。

ところで「阿翁」という地名が出てきたが、阿翁には特産品がある。それは「阿翁石」である。松浦市のパンフレットには、阿翁石は「粘着力に富むため繊細な加工に適し、また風化作用に耐えるため摩滅の度が少ないことで知られる」とある。1560年代に天下に名声を博したというから400年以上の石工芸の歴史がある。鷹島にはあちらこちらに石碑が建てられ、また墓石に多く使われているのもうなずける。平戸市にある平戸城の石垣や博多の筥崎天満宮の鳥居などにも使われているようだ。この史跡公園の石碑も、前回述べた「開田の七人塚」碑も阿翁石が使われている。

鷹島は島全体が“祈りの島”と私には思える。いつの日か、花が咲き乱れ玄海国定公園を望むこの地に立って古に思いを馳せたい。

■鷹島歴史民俗資料館・鷹島埋蔵文化財センター

鷹島の中央部に松浦市役所鷹島支所がある。そこから東北に少し行ったところに本資料館がある。言うまでもなく展示物の中心は元寇、特に「弘安の役」(1281年)の遺物である。なにしろ弘安の役では島の周囲が戦場となったが、台風の襲来により攻め寄せてきた4400隻の船と14万人以上の元軍の大半が海底に沈んだとされているところなのだ。既に紹



宮地獄史跡公園

(石津安信氏撮影 Google Panoramioから)

介したように昭和55年(1980年)水中考古学調査の最大の宝庫として選ばれ、翌56年7月から沈没船の遺物調査と引き揚げ作業が始まった。これにより貴重な遺物がいくつも発見され一般公開されたのである。その一部を紹介したい。出土地点は掲載の地図を参照いただきたい。

■大イカリ(碇)

元の軍船のイカリの一部であるが、欠けていなければ長さ7.3m、重さ1トンと推定されている。このイカリが設置されていた船は40メートル前後の大きさであったと考えられている。

■唐壺

たこ壺に似ているが下げ紐を通す三つの耳が付いており、穀物や水を入れたものらしい。島の周囲から多数引き揚げられ、いつの間にか唐壺と呼ばれている。

■懸仏

銅などの円板に仏像や神像の鋳像を付けたもの。柱や壁に懸けて礼拝したもので、鎌倉・室町時代に盛行したという。展示品は松浦党水軍が船中に懸けたものと言われている。

■管軍総把印

長崎県指定有形文化財。印台=6.5cm四方、厚さ=1.5cm、重さ726グラムの青銅製の印鑑。鷹島南岸の神崎海岸で貝掘り中に発見された。「総把」とは元の将校の位で、位の高い順で三番目の地位である。



ここで「国史跡・鷹島神崎遺跡」の紹介をしよう。

鷹島は全体でみれば三日月の形をしているが、その中央部から九州本土に小さな半島が伸びている。この半島の南岸一帯(約38万m²)が「鷹島神崎遺跡」の名称で国史跡に指定されている。昭和55年から調査が



始まったが、5年前の2011年(平成23年)に琉球大学の研究チームが元の軍船の骨格である船底の竜骨(キール)等を発見した。これが追い風となり



大イカリ (松浦市公式HPより)

2012年に日本の海底遺跡で初の国史跡指定となったものである。本指定範囲では、前述の「大イカリ」や「管軍総把印」も出土している。そして2014年には本史跡から東に200メートルの海底で、2隻目の沈没船を発見した。この船は全長約20メートル、幅は6～7メートルと推定され、1隻目より小型である。船内や周辺から12～13世紀の中国製と見られる白磁器、陶磁器なども多数見つかり海のリマンがますます掻き立てられているようだ。2隻目発見を報じた長崎新聞(2015年7月3日号)によれば、調査に当たった琉球大学の池田榮史教授の話として、「2隻目は船体の保存状態もよく、当時の船の構造を知る上で有効な資料となる。今後の調査でさらに多くの元寇船を発見できれば、鷹島は日中韓をはじめとするアジアの船舶史研究の中心地にもなれる」と期待を込めて書かれている。日中韓そしてモンゴルも含めた国際交流と相互理解がさらに深まるよう願っている。

■鷹島モンゴル村

観光スポットの最後に島の北端にある「鷹島モンゴル村」を紹介しよう。モンゴル村にはモンゴルから運ばれてきた遊牧民が暮らす「ゲル」という円形の移動式住居がいくつも設置されている。九州は台風銀座であるが、弘安の役並みの台風はこのゲルは持ちこたえるのだろうか心配になった。ここではモンゴル衣装も着てモンゴル気分になれるという。動物とのふれあい、グルメ、温泉など家族が一日中遊べる体験型テーマパークとなっている。のんびりと楽しめる場所であるが、700年前は敵味方に分かれ激しい戦闘が行われた場所とは思えず、恩讐は遥か彼方となっている。そして日本とモンゴル国の交流の象徴的な場所となっている。

(つづく)

➤大杉栄と中国のエスペランティストたち

1885年に生まれた大杉栄は、前回に紹介した第六高等学校の英語教師であるガントレットが始めた通信教育を受けた700人近い生徒の中の一人でした。1906年3月、東京の電車賃値上げ反対運動に参加して逮捕された大杉は、「一犯一語」というモットーの下、収容された監獄でエスペラントに励み、かなりモノにしたようです。

40数年来の畏友、エスペランティストの手塚登士雄氏の論考「日本の初期エスペラント運動と大杉栄らの活動」(アナーキズム運動研究誌『トスキナア』4号5号、皓星社刊)によれば、「今朝早くからエスペラントで夢中」「エスペラントは面白い様に進んで行く。今はハムレットの初幕の処を読んで居る」という大杉の手紙を紹介しています。そして三か月後に出獄した大杉は、創立間もない日本エスペラント協会の活動に参加し、協会付属エスペラント学校では運営と講師として大いに活躍しました。

手塚氏は、『日華世界語教科書』が1907年5月に発行されているので、その頃すでに在日中国人留学生の間で学習意欲が高まっていたと想像できる」(「中国のアナキズム運動とエスペラント」(『トスキナア』3号)と記しています。中国では今もエスペラントは世界語と称されています。

その頃から幸徳秋水などの日本の革命家らと張継、劉師培ら中国の革命家たちとの交流が始まり、大杉栄は日本にいる中国の革命家たちにエスペラントを教えました。その多くはアナーキストだったようです。本来持っている中国人の自由奔放な個人主義的資質は、几帳面すぎる日本人よりアナーキズムの思想にととても合う、と私は思っています。こんなことを言えば、中国の人たちに怒られるでしょう

か。日本で生まれ育った私は、この中国人の資質を大いに推賞したいところです。また、エスペラントの理念である民族や言語を超えた世界性は、アナーキズムを信奉する人たちの考えに極めて近く、スムーズに受け入れられました。それ故に、中国のアナーキズム運動はエスペラント運動と連動するような形で進行していったようです。

このように中国にエスペラントが伝わった一つの流れが、在日中国人の革命家、とりわけアナーキストたちからでした。ちなみにもう一つの伝播の流れは、パリに留学していたアナーキスト、呉稚暉や李石曾らによるものです。

➤魯迅、周作人兄弟とエスペラント

『阿Q正伝』『狂人日記』を書いた中国の文豪・魯迅は、エスペラントに大変関心がありました。弟の周作人はエスペラティストとして自他ともに認められる存在で、北京世界語会の会長を1922年に就任しています。魯迅がエスペラントを話せたかどうかはわかりませんが、エスペラントの支持者であり、強いシンパシーを持っていたことは確かです。

バラライカを弾くロシアの盲目のエスペランティスト、ワシリー・エロシェンコが日本に滞在していましたが、危険思想の持ち主と見られ、日本から追放されて中国に渡った時、魯迅は彼と親しく交流しています。

エロシェンコは、蔡元培が北京大学学長に就任後の1921年、北京大学は必修科目にエスペラントを採用し、講師にエロシェンコを起用しましたが、その力になったのが魯迅でした。このエスペラントの授業に何百人か、多くの学生が関心を持って参加しましたが、エロシェンコの研究家で中国文学者の藤井省三氏によれば、革命成ったロシアに一時帰国したエロシェンコは、故郷のウクライナに戻り、農民の生活ぶりを見て〈ロシア革命〉に失望したようで

混迷の時代を拓くザメンホフの人類人主義「私は人類の一員だ！」IV
中国のエスペランティストたち

ジャーナリスト、方正友好交流の会事務局長 著書『ある華僑の戦後日中関係史』

大類 善啓(おもしろいよしひろ)

す。エロシェンコの実家の近所の人たちにはロシア革命はほとんど益がなく、みんな不満タラタラ。この“革命”は失敗だったとエロシェンコは思ったそうです。そして北京に戻ったエロシェンコは、故郷ウクライナでの話と自分の思いを率直に学生に語ったところ、マルキシズムにシンパシーを感じていた北京大学の学生たちは、ロシア革命を貶すエロシェンコの授業に徐々に欠席し最後は、聴講者は一人しかいないという状況になったようです。ともあれ、魯迅と周作人はエスペラントと深い関係がありました。

▶巴金とエスペラント

落語の三題噺ではありませんが、中国・エスペラ

ント・アナーキズムという3つの題を出せば、まさに巴金です。四川省成都出身の巴金は、もし中国で最初にノーベル文学賞を取るとすれば彼しかいない、と言われるほどの作家でしたが2005年、100歳を超えて亡くなりました。長編小説『家』は、旧家の大家族制の抑圧に苦しみ、それに対して反抗をする青年を描いて多くの読者を得て、大きな反響を呼びました。

新中国成立後は、中国作家協会的主席を務め、1984年5月には国際ペン東京大会に参加するため来日、彼らの歓迎パーティーに私も出席、巴金と会い名刺を交換したことが甦ってきました。この時の模様は次回に。(続く)

◆'わんりい'料理の会・報告

イエリン 『叶霖さんと一緒に作る楽しいお弁当』 講師：叶霖さん 於：まちだ中央公民館・調理室 2016年5月17日(火)

5月17日、町田市中央公民館の調理室で叶霖さんによるキャラクター弁当講習会が行われました。当日はあいにくの雨天でしたが、「コープみらい」とわんりいの会報を通しての呼び掛けで、10名の参加者がキャラ弁作りを楽しみました。

叶霖さんは中国魯迅美術大学を卒業され、日本でデザイナーやイラストレーターとして活躍の他、大学でも教えていらっしゃいます。キャラ弁はお二人のお子さんが幼稚園に入園した時に作り始めたそうですが、キャラ弁コンクールで何度も優秀賞に輝きました。

一昨年には、日本のお弁当を紹介する本を中国で出版され、中国の若いお母さんの間で評判になりました。都内や川崎市などでのキャラ弁講座講師も務められ、彩りよく楽しさ溢れるイエリンさんのキ

ャラ弁はいつも大変好評とのこと
です。

5月17日は叶霖さんの指導で、ハムやソーセージ、ブ

ロッコリ
ー、トマト、
卵などを使



講師の叶霖さんさん
った栄養豊

富で、見た目も可愛いキティちゃんのキャラクター弁当作りをしました。卵の薄焼きとハムを使ったバラの花やソーセージを使っの鯉のぼりは季節感があります。また、お弁当のキティちゃんを作る人によってそれぞれ異なり、作り終わって並べたお弁当はそれぞれとても個性的で楽しいものでした。

運動会や遠足、日々の弁当作りに今回習った技をいろいろに応用してみたいと思いました。(報告：崔貞)



参加者のキャラ弁・揃い踏み



当日のランチメニュー

チベット系少数民族地区に在る丹巴の町には公設市場が2か所あって大きなビルの中に肉や豆腐や野菜果物や乾物等を売る店が沢山立ち並んでいます。豆腐や袋瓶詰めした加工食品調味料の類は一個幾らで売っていますが、他は全て量り売りなのが日本と違います。

肉の場合、成都のスーパーマーケットでは皮や脂を除いた小さなブロックをパック詰めで売っていますが、丹巴の肉屋は皮も脂も更に小さな骨も切り分けずに売ります。だからと言って成都より安い訳ではなくむしろ高くて、奥地での生活の不便を感じる場面の一つです。ただ顔なじみの肉屋はレバー等の内臓肉をおまけに付けてくれます。

写真1は歩行街の公設市場の肉屋の一つで5kg余りのブロックを切出している所です。値段は180元余りでした。

写真2は同じ公設市場の片隅にある人気の豆腐屋です。40年位前から母娘2代に渡って自家製の豆腐を売っていて、丹巴で一番美味しいと言われています。この豆腐は日本人の私が食べても美味しく、私は時々湯豆腐に使っています(但しつけ汁は水餃子のと同じ唐辛子醤油です)。当地では一丁2元です。横道に逸れますが、日本人の私が食べても

美味しいと言えば、数年前から日本とほぼ同じ風味の醤油や酢が出回っています。これらは需要の少ない商品ではなく、成都のスーパーマーケットでは売場を占領する程の売れ行きです。昨年からは丹巴のような片田舎の店でも売られるようになり、私としては便利になって助かっています。

他に青空の下で農家の人が路地に集まったり**(写真3)**、銀行門前の道路端**(写真4)**で自家製の野菜等を売る姿が見られます。公設市場では成都などの大都市の卸市場を経由して来た物が多く売られているのに対して、青空市場の方は種類が限られますが取り立ての新鮮な物が手に入るため町の人は重宝しています。



写真2 公設市場の片隅に有る人気の豆腐屋



写真1 公設市場の肉屋で5kg余りのブロックを切出している所。値段は180元余り。



写真3 路地で野菜を売る



写真4 銀行門前の道路端で自家製の野菜等を売る



写真5 左からゼンマイ、ニラ、
蒿笋(ウオスン)



写真6 ウド



写真7 キノコ類



写真8 サクランボは安い



写真9 冬虫夏草

青空市場で売られる物は時期によって様々です。5月初旬はニラや白菜やジャガイモ等が出回る時期ですが、他にゼンマイやウドの芽やキノコ等の山の幸も出て来ます。写真5は左からゼンマイ、ニラ、^{ウオスン}蒿笋(この皮をむいて乾燥したものが日本で売っている「ヤマクラゲ」です)。写真6はウド、写真7はキノコです。これらの山の幸の内、キノコは昔から当地の人達が食していますが、ゼンマイやウドの芽は10年位前までは見向きされず、松茸の場合と同じように当地の業者が買い付けるようになってから食べ始められました。ただ残念な事にゼンマイは数年前から業者に買い占められて丹巴の人の口に入り難くなっています。

またサクランボ(写真8)が最盛期で、日本で昔から見られるのと同じ赤い直径1cm位のサクランボが箆やバケツに盛られて売られています。今年の最盛期のサクランボの値段は16元/kgです。20年前は2元でしたが当地の経済発展と共に果物が値上がりが続いています(野菜の値上がりは少しですが)。

なお冬虫夏草(写真9)の売り買いが始まるのもこの時期で、掘って日が浅い泥を付けたまま

の冬虫夏草を囲んで値決める姿が銀行門前の周辺で見られます(業者の取引は一回数万元位になります)。

.....
●大川さんのホームページはこちら

<http://rgyalmorong.info/index.htm>

<http://rgyalmorong.info/scholaweb/conts.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmorong.info/>) に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」でご覧になれます。

(<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

東西文明の比較(5)

陽光新聞社・顧問

塩澤宏宣

前月号(213号)では、私たち日本人のルーツが二つあったことを記しました。その一方はシベリア・バイカル湖を經由して北海道・東北へ、もう一方は黄河・長江流域から九州・関西地方へ流入したことです。南北に細長い列島に北と南から人々が入ってきたことになります。このことには興味があります。南北に細長い国々、たとえばイタリアやベトナム・韓国などでも南と北では種族が異なっていることです。それぞれの国は、統一までに数々の争いを経ています。しかし日本列島にきた南北の異なる種族は争いごとの形跡がありません。そのことは、日本列島が自然の豊かな恵みに覆

われており、「狩猟・採集・漁労」の生活が1万年以上続いたという世界に自慢できる「縄文文化」の賜物といえるのではないのでしょうか。近年、「縄文文化」が静かなブームになっているようですが、私も「縄文文化」が大好きです。そこで縄文について私観を述べてみたいと思います。

🏠 最古の縄文土器

青森県の浜町大平山元遺跡から出土した縄文土器を最古とする説があります。約1万6千500年からそれ以前の縄文草創期(1万6千～1万年前)のもので、現在、世界最古の土器と言われています。

縄文人たちは二つの道具を持っていました。第一の道具としては、「狩猟・漁労・採集」で食材獲得のための道具類と食料を調理・加工するための石皿とか磨石、土器類、そしてこれら道具類を作るための道具です。そして第二の道具類として、土偶、石棒、石剣、石冠、御物石器など祈り・呪術などの道具類、いわば“心の道具”です。これらの道具、特に土偶は7～8千年前の縄文早期中ごろ関東に出現し、東海から近畿へも伝えられました。4～5千年前、縄文前期末から中期初頭にかけて、新潟から東北北部、宮城県でも多数の土偶が作られました。

その後、弥生文化の誕生によって、この第二の道具“心の道具”は消し去られました。弥生時代は効率を重んじる農耕主体の文化を推し進めたからです。

🏠 縄文人の食生活

多くの縄文人は東日本の落葉広葉樹林帯に集落を営んでいました。大部分は海岸の近くでした。福井県若狭町鳥浜貝塚の遺物を手がかりに縄文人の食料を推測した研究によると植物の全熱量の43%をクルミ・クリ・ドングリ・ヒシなどの堅果類から得ていました。

感心するのは、縄文人の食生活が季節の変化に対応していたことです。春はゼンマイ・ワラビ・コゴミ・セリ・フキノトウ・ノビルなどの草類、スガイ・アサリ・イワシ・フグ・スズキなどの魚介類、トリ・シカ・イノシシなどの動物類です。夏は保存食。秋はキノコ・トチ・クルミ・クリ・ヤマノイモ・ヤマユリなど。魚はアイナメ・メバルなど。冬は木の実・干し山菜・ヒモノなどの保存食。今でもこの習慣は残っているので、食べるたびに縄文人を思い出しています。

食料確保の作業の合間には土器や石器作りなど様々な仕事をしていました。縄文人の狩は弓矢です。それですばやい動きのイノシシやシカを捕獲することが出来たのです。その他、罠や落とし穴・網なども使用しました。土器の使用は「煮る」ことを可能にしましたが、煮ることで「あく抜き・渋抜き・毒の除去」にも重要な役割を果たしたことは画期的なことです。

約1万年前の縄文早期の人々は、集落周辺のクリやクルミの木やイモ類、彼岸花などを計画的に増やしていく集団もありました。特定の有用な植物を増やすことを「半栽培」といいます。「半栽培」は農耕の原型ですが、日本では広く見られました。

🏠 縄文人の信仰と円思想

生活にゆとりが出てくると、独自の文化を生み出すことになります。その一つが精霊崇拜、現在の神道の原型です。縄文人は、全ての人間が靈魂を持つと考えていたようです。

「不滅で善良な心を有している。ゆえに、人間の身体は死んでも、目に見えない靈魂はいつまでも生きていて子孫を見守って助けてくれる」と、されました。更に動物や植物、愛用する器物にも靈魂が宿り、彼らが力を合わせて自然界を動かしていると信じていました。

これが精霊崇拜「円の思想」です。自然界をつかさどる精霊にさまざまな祭祀を行ないました。土偶・勾玉・石棒などの祭器が遺跡から多数出土しています。

縄文人の村落と円の発想

精霊崇拜は、全ての人間を平等にするという考えを図にすると「円」になります。集落は円形の広場の周りに住居を集める形態をとりました。住居はほとんど同じ規模です。集落を構成する全ての家族はみな平等という発想です。地面を数十センチ掘り下げ、4～6本の柱を立て、梁を設けてその上にカヤや草を編んだむしろをかぶせて屋根にします。広さは20～30平米ぐらいで、部屋の中央に炉を置き、奥には儀礼空間を置くのが普通です。

縄文都市の生活

縄文文化の基本的要素は縄文早期に出揃っていました。約1万年前から6千年前に至る4000年間で早期です。その4000年間の人々の衣食住や信仰はほぼ同じでした。

縄文都市といわれる青森市三内丸山遺跡は約5千5百～4千年前に至る約1500年間栄えました。縄文前期後半から中期の終わりまでです。約35ヘクタールの広さに、常に500人ほどが住んでいました。太さ1メートル近い柱を6本立てた高床式建物がありました。祭祀用の建造物と想定されています。その他、10メートル以上の長軸をもつ小判型の大型住居跡が20棟以上見付かっています。建物は集落中央を通る道に面して建っていました。集落の周りにはクリ林が造成されていました。

三内丸山遺跡の注目すべき点は、遠隔地の多様な物品が出土したことです。新潟県産の翡翠、岩手県産の琥珀、秋田県つぎき檜木産のアスファルト、北海道産の黒曜石などが見付かっています。翡翠・琥珀は装身具、黒曜石は石鏃、アスファルトは石鏃を矢竹に止めるために使います。これらは海路を使って交易していたのでしょう。繁栄した三内丸山の集落は約4000年前に忽然として消滅しました。気候の冷涼化が原因と考えられています。

自然との共生

食料の確保が計画的になり、大量に確保して貯蔵しながら長期的な食糧事情の安定が図られました。腐敗を防ぐために穴倉などの施設や保存加工が工夫され

ました。

縄文人は多種多様な食料を利用しました。哺乳動物60種以上、貝類350種以上、魚類70種以上、鳥類35種以上、植物性食料55種(実際は300種を超える)以上を食したことが分かっています。それぞれが自然や季節の恵みとして受け取ったのです。

これに対して弥生時代の農耕は「対立」の文化といわれます。農耕は、コメを初めとする栽培種に時間と人手を割き、収量の確保に努めます。春に種籾をまき、水配り・除草など収穫まで息つく暇も無く働き、ひとたび異常気象になれば一挙に飢餓になるのが農耕です。

焼畑に始まる縄文農耕から弥生への流れ

福岡県三方町鳥浜貝塚(縄文前期)からヒョウタン・リョクトウ・エゴマ・シソ・ゴボウ・アブラナ等の種子が出土しました。狩猟・採集・漁撈にプラス「栽培」があった証拠です。

温暖で雨の多い照葉樹林帯はインド・アッサム、ネパール・雲南に続き、朝鮮半島南部から日本列島南部に続きます。稲はこの地域に生息し、焼畑農耕と共に広がりました。

揚子江流域の江南で生まれた水稻耕作は、紀元前1000年前に朝鮮半島に伝わりました。日本へは、縄文時代晩期(3千～2千3百年)に朝鮮半島から伝えられたといわれてきました。しかし近年、水田跡から縄文土器が出土するケースが多々あり、福岡市板付遺跡や佐賀県唐津市菜畑遺跡からも縄文晩期の土器が出土したことから、九州北部の縄文人が朝鮮半島南部と交易し、水田耕作(水路・井堰・取水口などの構築)を導入したことが判りました。それらの動きはやがて「無紋土器(弥生土器)」と共に日本列島に広まり、弥生時代がはじまります。当初は陸稲でしたが、水田による水稻耕作が始まると土地の占有が始まり、貧富の格差が生じます。それが特権身分を形成し、「円の発想」から「区分の発想」に立つ社会への転換です。

……やがてあちこちに1000人程度の小国が興り、それらの首長(指導者)が寄り集まり、日本統一の序曲が始まります。弥生時代は邪馬台国の時代です。

■縄文：精霊崇拜・円の発想・共有財産・平等

■弥生：祖霊信仰・区分の発想・私有財産・身分制

(以下次号で)

フィリピン滞在記 ⑬---大統領選挙とその後

為我井輝忠

3月下旬に日本に一時帰国した。フィリピンの大学では3月中旬に最終試験が行われ、その後は6月初旬まで約2か月半夏休みとなる。長期の休みなので、日本に帰国して5月中旬まで日本にすることにした。帰国寸前にはあちこちで大統領選挙が過熱していて、ニュースで見ていると、殺傷事件まで起きたようであった。帰国して1か月半ほどの後、気になる大統領選挙が5月9日にあり、翌日にはその結果が判明した。

新大統領に選ばれたのは「フィリピンのトランプ氏」と言われたロドリゴ・ドゥテルテ氏(71)で、当初はあまりぱっとしなかったが、後半徐々に追いつけてきて、終盤ではトップに躍り出たとの予想であった。

前回の「フィリピン滞在記」では、大統領候補には5人立候補していると書いたが、その5人について再度確認をしておきたい。大統領に選ばれたのは南部ミンダナオ島のダバオ市長をしていたロドリゴ・ドゥテルテ氏で、約1457万票を得、全体の40%を獲得したと選挙委員会が発表した。現大統領のアキノ氏が後継指名したマヌエル・ロハス前内務・自治相(58)は23%、無所属のグレイス・ポー氏(47)は22%にとどまり、両氏ともすでに敗北を認めた。もう一人の候補者で現副大統領のジェジョマール・ピナイ氏(73)とミリアム・サンチャゴ氏(69)に関しては、日本の新聞ではどこも詳しいことが出ておらず、詳細は分からない。数日後の「フィリピンのネット情報でそれぞれの得票数が出ていたので、ご参照ください。

ロハス氏は10日午後の記者会見で「ドゥテルテ氏の成功を祈る」とだけ述べ、数分で会場を後にした。アキノ氏は自らの後継継続に失敗し、沈黙を守っている。

2010年に発足したアキノ政権は、6月末で任期を終えるが、国内外からの評価は高かった。外交・安全保障面では日本とは安定した関係を結び、米国とは米軍を25年振りに事実上再駐留させる新軍事協定を締結し、日本とも地位協定を結ぶ方向に至った。南シナ海の領有権を争う中国との関係は悪化したものの、国民の支持を集めてきた。

経済面では汚職撲滅と財政再建を強く推し進めてきた。国債は13年に大手格付け会社から「投資適格」と認定され、外国からの投資が増えた。在任中の国内総生産(GDP)の伸び率は年平均で6%を超

えた。世界銀行によると、14年の対内直接投資額は62億ドル(約6700億円)と就任した時の6倍に増えた。

そうしたアキノの路線から民意を振り向かせたドゥテルテ氏は、「犯罪者は殺害する」といった過激な発言で人気を集めたものの、外交や安保、経済政策について語る場面は少なかった。

「祖父が中国人だから中国と戦争しない」と述べ、中国との対話の重要性や南シナ海での共同資源探査へ可能性を示唆するなど、

一見すると中国寄りの姿勢が注目される。一方では、「(中国と領有権を争う) スカボロー環礁に行って国旗を立てる」とも述べている。「南シナ海問題は多国間で協議する」との彼の見解は、あくまで二国間問題として米国などの介入を排除しようとする



各候補の得票数

中国とは相容れない。融和か強行か、現時点では対中姿勢は見えにくい。数日前対中国政策の方針を発表したようだが、詳細は未確認である。

経済政策は外資規制の緩和を示唆した程度で、アキノ氏が参加に前向きであった環太平洋経済連携協定(TPP)に関しては何の言及もない。

ドゥテルテ氏は世界には目もくれず、既存の政治システムを否定した。国民が期待する英雄像を演じる姿は、米大統領戦で共和党の指名が確実になったドナルド・トランプ氏を大いに彷彿させる。改革を語るドゥテルテ氏は国民を熱くさせた。しかし、世界の現実と常識を直視し、米国や中国をはじめ諸外国と冷静な関係を築けなければ、フィリピン国民の熱狂はやがて失望へ変わるだろう。

副大統領選はかなり接戦であった。副大統領は、大統領が何らかの理由で失脚した場合などに大統領に繰り上がる重要なポストである。その副大統領選で、故マルコス元大統領の長男フェルナンド・ボンボン・マルコス上院議員(58)が当初優勢だと言われていた。確かに開票が始まると、その勢いはすさまじいものがあった。ところが、後半になると



銃を手にしたドゥテルテ新大統領

アキノ現大統領が推すレニー・カブレッド・ポッチェロ氏(52)が抜きん出てきて、当選を決めた。これまた今後の展開が興味あるところである。

こうしてフィリピンの熱い選挙の戦いは終わった。日本から見ていると、選挙の方法も手段も異なるが、フィリピン国民がどうしてこうも選挙に熱狂する

のかわかりにくい。ただ、人々の不満やはけ口がこうした選挙を通して国に向けられているのかもしれない。

‘わんりい’ は、いつでも新入会を 歓迎します。

年会費：1500円 入会金なし

郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田市各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

◆わんりいの催し ボイストレーニングをして 日本の歌を美しく歌おう!

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体の力を抜いて、気持よく発声しよう!!

▲6月の講座：28日(火)まちだ中央公民館・視聴覚室

▲7月の講座：26日(火)まちだ中央公民館・音楽室I

▲時間 10:00~11:30

★動きやすい服装でご参加ください

●練習曲：「ひとつの種」

●講師：Emme(歌手)

●会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

●定員：15名(原則として)

◆申込み：☎042-735-7187(鈴木)
E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)



◆わんりいの催し 中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!

▲6月の講座：12日(日) ▲7月の講座：17日(日)

▲場所：6月・7月の会場室
まちだ中央公民館 第3・4学習室6F

▲時間：10:00~11:30

▲講師：植田渥雄先生
(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)
E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)



台湾では、ハイキングのことを「健行^{ジェンシン}」という。

台湾の面積は九州より一回り小さい。けれども、ウィキペディア「台湾山峰列表」によると3000m以上の高峰が269座もある。これらの山はそれなりの体力と技術がないと登れないし、3000m以上の山へは登山許可証と、有資格ガイドの同行が必要だ。一方、里山を巡って楽しむ台湾のハイキングコース「登山歩道」がよく整備されている。

私は一人で、台中に住む友人の“信ちゃん”を訪ねて遊びに行った。2016年4月のことである。台北から台中に行く前に、台湾北部の観光地「九份」でハイキングをする計画を立てた。

九份は台湾北部の海岸に近い500m級の山並みの中腹にできた街である。19世紀末には、金鉱、石炭坑で栄えた。しかし金、石炭とも採掘が進み資源が枯渇して街は寂れた。近年になって、映画「悲情城市」のロケ地になったことや、古風な街並みのたたずまいが人気となって一大観光地となった。

私のハイキング計画第一目標は「基隆山」。山名は近くにある港湾都市「基隆^{キールン}」から名付けたのだろう。別名は「雞籠(鶏籠)山」で名前の由来は海上から見ると山のかたちが鶏籠に見えるそう。登山口の標高は約320m、山頂は588m。従って標高差270mくらいなので比較的楽に登れるだろう。基隆山のもう一つの別名は「基隆富士山」。

「基隆山」だけでは1日の行程として時間が余ってしまうので、ネットで見つけた「大粗坑古道」という、九份起点の山越えのハイキングコースも同じ日に歩くことにした。この道は、石炭採掘のための道をハイキング道に改修したようだ。台湾のネットから取り込んだ地図を印刷して旅行前に準備した。



4月9日夕方、予約した九份の民宿「九重町客棧」に着いた。天気はあいにくの雨模様で、降ったりやんだりの天気が台湾滞在中続いた。日本なら梅雨前線に相当する雨雲が台湾に停滞していたのだ。台湾旅行の日取りは、信ちゃんの都合に合わせて計画した。思えば“信ちゃん”は雨男で、彼が絡

むと雨になる日が多かった。

翌4月10日の朝となる。前夜は雨が断続的に降っていた。窓から明るくなった外の路地を覗くと雨はやんでいる。朝食を済ませてから「基隆山」に登るつもりであった。しかし未だ6時で、朝食は8時。なので2時間ほど間がある。それなら散歩がてら「基隆山」の登山口を確認しておこうと思った。

宿を出てすぐ脇の小道に入る。右手は軒の続く山側、左手の谷側は土手になっている。土手のさらに下はバス道路が登り坂になって並行している。視界が開けると海岸線が見えた。これから登るオムスビ型の「基隆山」がよく見える。

私の今歩いている小道がバス道路に交わるところが、登山口だった。宿からほんの10分ほどだ。「雞籠



九份から見た基隆山

山登山歩道」と刻まれた案内碑からコンクリート階段の登山道が続いていた。

ほとんど一直線の階段道でおもしろみは無いが、短時間で山頂に行けそう。登山口までの偵察を、朝食前の登頂決行に方針変更した。とにかく朝食が始まるまでに戻ろうと少し急ぐ。途中展望台があり九份の街を観察する。ここから見た九份の街を見て驚いた。市街地の左3分の1くらいは墓石群が占めている。まるで死者の街で残りの3分の2が現世の人が住む観光地だ。登山口へ行く途中にも綺麗な装飾の墓石が幾つかあった。しかし、山上から眺めて見えた「墓石街」ともいえる景観に呆れる。これは風水に関係あるのだろうか？ ゲゲゲの鬼太郎さんもびっくりだね。

前に行く登山者が一人居た。遠目にも近目にも若い女性で、一人で登っている。私の方が少し速いのでやがて追いついた。「早(おはよう)」と台湾風の挨拶をして、カタコトで訊ねると学生さんとのこと。やがて山頂に着いた。登山口から所要30分だった。

ぐずついた天気割には、マアマアの展望で、基隆の街と思われる方向は複雑な海岸線に乗った家々が見えた。山はほとんど草地で樹木は無かった。反対側は雲が低く、遠方は見えなかった。朝食後に行く予定の、「大粗坑古道」の入口のある「九份中学校」を目視で確認できたのは収穫だ。

下山にかかる。下を見れば日曜日のためか、登ってくる人が多くなった。帰路は山腹を巻きながら下る登山道をとった。その道は往路の階段を少し下ったところから分岐する。展望に優れ、よい道なのだが、これが苔むしていやらしく滑る。氷結した登山道を下るときと同じ要領でそっと足を置き、なるべく踏ん張らないで抜け歩く。何とか騙して下りきり、登りにとった階段道に合流するとほっとした。階段は嫌だったのに、滑らないのでありがたい。

宿に戻ると8時15分だった。部屋に戻らず、すぐに朝食を頼む。ハムエッグと薄いトースト1枚で洋風なのだが、お粥や、ご飯、豆のスープなどもあり、主食が足りない人はここから自由に食べる仕組みだった。特に悪くも無くお値段通りの朝食だった。

さて、「大粗坑古道」の準備をして出発だ。連泊なので大きな荷物は部屋に置く。実は台湾で、一人の山



基隆山登山道から見た九份の街。破線囲みは墓地

歩きをしたことがなかった。たいてい案内人がいて、細かい調べも必要が無かった。だが、今度は言葉もママならぬ異国での山歩きなので、ちょっと緊張する。客観的にみれば、やさしい里山歩きで案ずることは無いのだが、道迷いとか、追いはぎ、登山道が崩壊、未知の毒蛇に遭遇、急な病気など悪く考えるときりが無い。

宿を出ると、飲料をコンビニで買い、昼食用にカステラのようなものを九份の土産屋で買った。これは甘すぎて閉口した。山勘で登山口の「九份中学校」を目指した。少しでも床面積を増やそうして空中にせり出した建物が続き、その崖下の道を、見当をつけて歩いた。けれども傾斜地に展開する街によくあるように、方向を定める道を選ぶのが難しく、見込みがありそうに思って進んだ舗装道路は家並みが切れると、山壁をうねって谷の下に落ちていた。下ってはいけない、上に行かなくては。この道は違う。少し戻って小脇を見ると、猫は居なかったが、手招きをしているように感じる小さな階段の道があった。入口には案内板があり、予定の道ではないがとにかく遊歩道だ。

私は東に寄りすぎていた。もうちょっと西に戻って「九份中学校」を捜せばよかったのだろう。しかし、この階段を登れば、「九份中学校」に続く道があるかも知れないと思い、その階段を上った。

再び案内板が有って大きく「小粗坑古道」と書いてある。大と小の違いだが、「小粗坑古道」というのが有るとは知らなかった。概念図もあり、現在地と終着地を示している。それによると終着地は「猴硐駅」^{ホウトン}近くにでるらしい。

(続く)

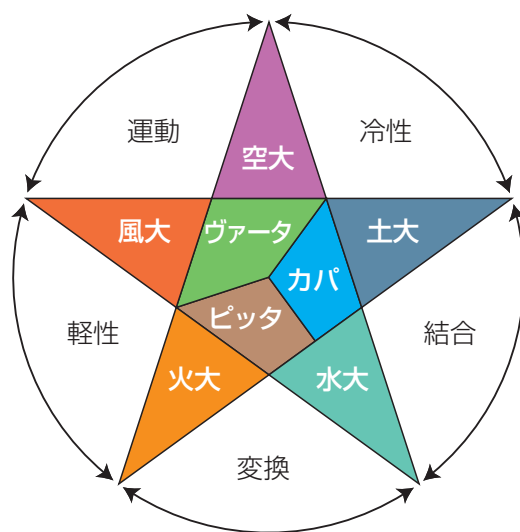
アーユルヴェーダとは、サンスクリット語で「生命の科学」の意味である。約4000年から5000年前、ヒマラヤの麓に聖人たちが集い、病を治す術はないかと話し合ったのが始まりだと、古典医書『チャラカ・サンヒター』に記されている。その中にスリランカ聖人が1人いた。これが、インドとスリランカのアーユルヴェーダが同根である所以である。紀元前3世紀頃に仏教伝来がきっかけで民間に普及し浸透した。寺院が病院の役割を果たし、僧侶はアーユルヴェーダの医師として人を助けたと聞き及ぶ。仏教と深い関わりを持ち治療、食事、美容などに於て心身共にリラックスしリフレッシュされる。如何に生きるべきか、自分と向き合うことでもあると思う。つまり、健やかに生きる知恵である。2012年3月中旬、タランガッレ・ソーマシリ師からアーユルヴェーダ大臣を紹介された。行政機関にアーユルヴェーダ省があり、大学にもその学科が設置され、公私の病院で専門医が活躍している。街には薬草を処方する薬屋をみた。恥しいことだがかつての私は、アーユルヴェーダとは、スリランカ風ヘルスマッサージ程度に受け止めていた。いつの頃から、仏教に重なるアーユルヴェーダの神秘に触れるようになって来ている。

🌸ちょっとだけ体験

2012年3月18日、比較的充実したアーユルヴェーダクリニックに入った。半日程の体験であるが、以前にもちょっとだけ体験したことがあった。門から玄関に至ると、入口脇にハーブの石鹸、ローションやオイル、サプリメントなどの販売コーナーがあった。時代が変われば観光客のために買いやすい品が置かれている。日本に比べればかなりリーズナブルな値段だと脇目しながら、別側の部屋に通された。その後、医師の脈診、聴診がありガイドの通訳に従った。「誰でもドーシャを持っています。ドーシャとは日本で言えば体質のこと、エネルギー源の性質です。ヴェーダ、ピッタ、カパに大別されますが、風、火、水の部類ということです。日本人に

多いのは、風のタイプですね」続いて、ドクターから20か条に余る質問をされた。当てはまるものを合計し、一番数が多いのが自分に近いドーシャとなる。例えばピッタこと「火」の部類の数が多いとしよう。常に活動的で周囲を巻き込んで何かをするタイプとか。このタイプは内側から燃えているので、時には食事も控え目にして静かな時間が必要であると言う。ドーシャによって食べて良い物、よくない食材もある。ソーマシリ師による説明では「一般に言われるのは、キューリは身体を冷やすとか、夜はトマトやニガウリは禁物で、油濃いものは避けるとか…」というようなことだそう。要は、診断によって自分の体質を知り、健康状態を維持することである。俗に言えば「体の毒素を出してスッキリしよう」である。

さて、次に肝心のトリートメントマッサージの2階個室に入った。一瞬、何となく薄暗い感じがしたのは私だけであろうか。何処の施設でも気持ちを落ち着かせるためにこのようなのであろうか。チェックカードによる処方オイルが温められ、全身にたっぷり落としすり込まれていく。クリニックのマッサージ順はまちまちで、最初はフットバスやヘッドマッサージなど、身体の負担のかからない部位から



トリ・ドーシャ(三体液、三病素)

(ウィキペディアから)

スタートするという。

セールスポイントの「シローダラ」マッサージが始まったかと思ったら、ゆっくり額にオイルが垂れてきた。ベッドの上でそのままうとうとしてしまい、時間が来て起こされるまで分らなかった。覗き見体験ではあったけれど、日本人女性の大半はこのシローダラに魅せられて「スリランカ旅行」が大人気となり、俄然、脚光を浴び続けているのだそうである。

アーユルヴェーダの極意

日本では西洋医学と東洋医学の医学が大きく占められている。後者は漢方薬や中国の療法である。昨今、タイのマッサージ、中東のハーブなど多国籍の心地良さが得られる術にも、眼が向けられるようになってきた。私の中では西洋は速効、東洋は遅効である。どちらが良いのかは各人の考え方と判断力による。

ところで、スリランカを代表する高僧パナガラウパティ ッサ師は、ソーマシリ師が尊敬する恩師であり、少なからず私もご縁を頂いている。本拠のスリランカ大菩提会第3代のお役を主として、インドや日本を往来されるご多忙の日々、腰痛に見舞われていらっしゃる傍目にも痛々しい。杖と車イスの毎日が4か月にわたったと聞かされていた。周囲から西洋医術を試みられるよう勧められていたと聞く。腰に包帯を巻かれた姿に、ソーマシリ師の心配と心遣いは尋常でなかった。然し、ウパティッサ師は、大いなるアーユルヴェーダの信奉者であられた。西洋医術に依る手術も考えられなくはなかったが、スリランカに継承された施術を受けられていた。しばらく師の消息が途絶えていたが、ソーマシリ師翻訳の『はだしのゲン』出版記念会に来日下された。私は、奇跡的なお姿を拝した。仏さまの妙技を確信され、アーユルヴェーダに托されていたのであろうか。

日本でも、アーユルヴェーダ治療院が眼に入る

ようになり、同時にテラワダ仏教僧と伝道センターがちらほら見られるようになった。スリランカアーユルヴェーダも花咲くかもしれない。

仏様の施術

仏教徒の接点を辿っていくと、僧侶がアーユルヴェーダ医であったり、瞑想の目的や方法をレクチャーして下さる学びの機会がある。穏やかな気持ちへと導くことで心身共に癒やすことが出来るからである。近代化の波が押し寄せ、変化していく環境にあっても、心の片隅に形なく目に見えないものを信じるものが支えている世界に通じる。そこでソーマシリ師が話されたことは興味深かった。師によれば、「アヌラダプラ遺跡群に古代シンハラ王朝が栄誉を誇った無畏山寺ことアバヤギリヴィハーラが在ったでしょ。その宗派は大乗仏教で、対して瞑想に於て悟りを目指す小乗(テラ)仏教(ワダ)と中間的な第3勢力の形成で、当時の仏教界は混迷を極めた。パラクラマ・バーフ1世のサンガ浄化が始まる時代まで続いていた。王は、スリランカの大乗仏教アバヤギリ集団を排斥した。大乗仏教は消滅してしまったが、庶民の中に根ざした社会貢献を多く行った為、アーユルヴェーダ施術や占星術が残って今日に至っているんだ」とのことである。

そういえば、生活全般に於て占星術師に相談することが多いと聞いている。明確なアドバイスによって、未来の進むべき道を示してもらえる。気持ちのコントロールやストレスから解放されるのは、仏様の施術に他ならないのである。日本の仏教とは相違して、スリランカ人の仏教観は涅槃に至ることが最終目標である。可能であろうか？ どちらにしる、心のデッド・ロックから抜け出る仏様の教えと施術の名残りは、このように現在まで連綿として生き続けてきているのだと思うと、パワーをいただいた気持ちになった。



頭部のオイルマッサージ
(ウィキペディアから)

中国・義烏市でパン作りの指導をする Ⅲ

杣野 一

義烏には特別な名所などは少ないようですが、買い付けに来る商売人は多く、真夏の8月初めにはホテルでビール祭があり、私がいた頃は南米コロンビアから楽団やダンサーが来たりして、それが一週間続きました。

ホテルはビール祭の入場券を1枚148円で売り出しましたが、毎日400枚～500枚が売れました。その祭の準備として、祭の前にパンで魚の鯛を4個と長めのパリジャン（フランスパン）を40本焼いてずらりと1本ずつ吊り下げて祭の飾りにしました。

中国人4名と私の併せて5名が厨房のスタッフとして、朝の5時から作業を始めましたが、ケーキ作りに1名がかかりきりなので、結局パンを焼くのは4名です。その4名でフランスパンの他、ドイツパン、クロワッサンやバタロール、餡パン、クリームパン等々焼くのですが、焼いても焼いても足りません。仕込担当、オーブン担当を決めて作業をしたのですが、仕込担当者はパンの材料に加えるイースト菌の分量を間違えたり、塩を入れ忘れたりですし、オーブン担当には、それぞれのパンの焼き時間や温度、焼き色などを筆談で指導するのですが此方も失敗続出です。しかも失敗してもケロリとしています。中国人スタッフはパン作りに不慣れな事もあるのですが注意したことがさっぱり生きて来ません。お国柄ということもあるのでしょうか。

パンやケーキ作りも大変ですけど、厨房では早朝からブタの丸焼きなどが焼かれました。担当の者は、豚を刺した鉄棒を手で回しながら、オリーブオイルをスプーンで掛けながら狐色になるまで焼いて

行きます。焼きあがるころは昼になっており、焼きあがったものをナイフで切って客に出します。

私をはじめ、海洋酒店で仕事をしている外国人—日本人、ロシア人、マレーシア人、フランス人などはホテルの客室を一室ずつ与えられていますが、ビール祭が始まるとその期間中は他のホテルに移って宿泊することになります。私は共産党の学校の寮

に泊まるが多かったのですが、ここは広大な土地に建てられた環境の良い、非常にきれいな寮でしたので私は好きでした。

世界のどの都市にも日本人会がありますが、中国の都市にも日本人会があります。しかし、義烏に住む日本人は（私が知る限りにおいて21名の日本人が住んでいました）、日本人

会を作っていませんでした。それでも、年末には義烏に住む日本人たちが忘年会が開催し、その時は、2、3人のプラスマイナスはあるものの、殆ど全員が集まりました。

とはいえ、義烏にある日本人の会社は、社長1名、社員3～4名というような会社が多いので、忘年会に集まる日本人はいわば一匹オオカミ的な個性的な人たちです。ですから、忘年会も情報収集が目的の一つになっており、表面的にはにこやかに挨拶を交わしたりしていますが決して仲良しグループという雰囲気ではありません。忘年会で「今何が売れているか」、「これから何が流行るか」をいち早くキャッチする必要があります。私は商売には関わっていませんでしたが、そんな私にとっても何かと学ぶことが多く、年に一度ながら面白い集まりでした。

ホテルでのパン作りの仕事は順調で、義烏市滞在期間が長くなるにつれてホテルの皆さんと親しくなった事もあって、海洋飯店でも忘年会を私の為に開催してくれたり、日本人のツアー客も増えて来て楽しい日々でした。

（続く）



ホテルのビール祭で（左が筆者）
背景にフランスパンがずらりと飾り付けられている

【映画紹介】

シアター・プノンペン(2014年)

監督：ソト・クォーリーカー/105分

(原題：The Last Reel)

<http://www.t-phnompenh.com/>

第27回東京国際映画祭・国際交流基金アジアセンター特別賞/第3回(米)カンボジアタウン映画祭最優秀作品賞他/文部科学省選定(青年・成人向け)

カンボジア共産党・クメール・ルージュ支配下(ポル・ポト時代)のカンボジアについて私が知るの、マスコミや書籍による程度のことから、その上面^{うわつつら}のほんのわずかなことだ。当時のカンボジアの人々の、生活や心の問題まで踏み込んで知ることにはなかった。

文化大革命下の中国や北朝鮮の収容所についても、大きなスクリーンで語られる、等身大の人々の姿がやっと自分と同じ生身の人間の痛みを伝えてくれた。映像文化はいろいろあるけれどやはり映画の力はあなどれない。私の場合、その映画が美しくドラマティックで、出演者が魅力的であればいっそう感銘が深い。変な前置きで、紹介する映画がクメール支配下の人々を描く辛い時代の物語と誤解されるかも知れど、実はこの映画は永遠のラブストーリーである。カンボジアの風物にうっとりし、映画で語られる物語に心打たれながら、いつしかカンボジアの若い世代である主人公と共にカンボジアの現代史に向かい合っていた。

はつらつと映画の主人公を演じる新人女優の、若さがほとばしる健康な魅力がすごい。いい歳をしたバアサンながら彼女にほれほれとした。カンボジアはクメールルージュによって文化的にも大打撃を受けたが、このような女優が誕生するまでに復興したことを感じた。クメールルージュ時代を生き抜いた脇役陣の、苦難と苦労の時代を乗り越えた渋い味もいい。

++●●●●●●●●●●●●●●●●

クメール・ルージュ大弾圧が終わって、プノンペンの町も貧しいながら復興に向かいつつある。西洋文明・文化が若者達に浸透し、古い時代は過去のものとして若者たちは今を楽しむ。そんな若者のひとりである、プノンペンの女子大生・ソポンは、今は自転車の駐輪

場になっているかつての映画館にたまたま迷い込み、そこで上映されていた古い映画を見た。

その映画の主演女優はなんと自分の母。フィルムのリールを廻す部屋の壁にはタイムスリップしたかのように、ソポンの母の若い頃の姿を写す古い映画のスクリーン写真やポスターがいちめんに貼られていた。そして、観客のいない建物の中で映画を上映しているのは、この映画館の持ち主で、彼がクメールルージュに拘束された時、生きていたらこの建物で再会することをソポンの母である女優ソテアと約束したという。彼は自分が愛した女優ソテアの幻影を追いつけて、ソテアが主演する古い映画を上映し続けている。ソポンはこの映画の結末まで見たいと望んだ。が、その映画は、クメールルージュ支配下の混乱の中で最終巻が失われていた…。

++●●●●●●●●●●●●●●●●

監督・ソト・クォーリーカーは1973年、クメール・ルージュ政権下、及び、その崩壊後の混乱と内戦の時代のカンボジアで育った若手の女性監督で、しかも、この作品が彼女の初監督

作品とのことだ。父は民間飛行機の操縦士だったが、軍への入隊を拒否しクメール・ルージュによって殺された。監督は、「主人公の父親をあえて軍人にしたのは、クメール・ルージュによる被害者ばかりでなく、加害者である者たちも、実は傷つき、苦しみ、傷ついて生きていること、そして共に人間であることを認め合い仲良く生きて行かなければならない事を自分自身にも言い聞かせたかった」という。

(田井光枝)

劇場公開：7月2日～ 岩波ホール(神保町)

<http://www.iwanami-hall.com/contents/top.html>

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞いた面白い話などを気軽に寄せて下さい。又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単にご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

日中学院校友会・講演会

ピンポン外交から2020年オリンピックまで

卓球王国日本から卓球王国中国へ、そして2020年東京は？

1972年の日中国交正常化実現を促したピンポン外交。間近で体験された貴重なお話や、日本の卓球を今日のレベルまで引き上げた選手育成、卓球改革のお話を伺う。

●講師：木村興治氏

(日本卓球協会副会長、元国際卓球連盟執行副会長)

●会場：日中学院、3F教室

東京都文京区後楽1-5-3

<https://www.rizhong.org/access>

●日時：7月2日(土) 14:00 ~ 16:00

●会費：200円

▲申込み&問合せ：☎03-3814-3051(日中学院)

※申込みと問合せは電話でお願いします。

登山家・中村保氏による講演会

最後の辺境—チベットのアルプスとその彼方

●練馬区役所本庁20F・交流会場(定員60名)

●2016年6月27日(月) 16:30 ~ 18:00

●参加費：1,500円(当日徴収、当会会員・学生無料)

▲問合せ&予約(予約受付：6月23日/木迄)

☎03-5912-1232 FAXF: 03-5912-1233

e-mail: wusa@gesanmedo.or.jp

中村保氏著書：『ヒマラヤの東』『深い浸食の国』『チベットのアルプス』(以上、山と渓谷社)、『最後の辺境—チベットのアルプス』(東京新聞社)、ドイツ語版『Die Alpen Tibets』(Detjen-Verlag)、『ヒマラヤの東山岳地図帳』(ナカニシヤ出版)

町田国際交流センター・協力部会の催し

【講演会】ひとりで始めた海外支援

～何もなくても何かはできる～

●講師：生地 陽(東京科学少年応援計画代表/町田在住)

2009年よりベトナムとミャンマーでの海外支援をおこなう。

●町田市民フォーラム3F/視聴覚室(定員28名)

●2016年6月25日(土) 14:00 ~ 16:00

海外支援へ一歩踏み出すために必要なことは？ 現地の状況は？ 自身の安全は？ 資金は？ 海外ボランティア活動の注意点や必要なこと、そのやり甲斐など。

▲問合せ：☎042-722-4260 町田国際交流センター

▲申込み：名前/住所/☎/参加者数を書いて下記へ

FAX:042-722-5330 町田国際交流センター

E-mail: info@machida-kokusai.jp

初心者のための水墨画教室

【鶴川水墨画教室】

体験のお誘い

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験してみませんか。季節に応じて身近な風物を描ける楽しさを味わえます。

●講師：満柏(日中水墨協会会長)

●場所：和光大学ポブリホール・鶴川

小田急線鶴川駅北口より徒歩3分

<http://www.m-shimin-hall.jp/tsurukawa/>

●曜日・時間：毎月第2、第4(月) 14:00 ~ 16:00

●体験参加費：1000円、見学：無料

●問合せ：野島 ☎042-735-6135

映画会「60万回のトライ」

大阪朝鮮高校がラグビーの全国大会“花園”に出場しました。ソウル出身の監督が、大阪朝鮮学校ラグビー部を三年間取材してつくったドキュメンタリー映画

●6月26日(日)

昼の部 14:00 ~ (開場 13:30)

夜の部 18:00 ~ (開場 17:30)

●町田市民フォーラム3Fホール

●参加費：1000円、中高生500円、小学生以下無料

▲申込み&問合せ：090-3692-9382(瀬戸)

主催：映画「60万回のトライ」町田上映実行委員会

‘わんりい’ 214号の主な目次

北京雑感(103)本屋さん	2
論語断片(16)之を知る者は之を好む者に如かず	3
媛媛讲故事(85)「蛇の恩返し」II	4
諺・慣用句(50)「九牛の一毛」	6
私の漫画「カラズン」に寄せる想い	7
元寇と鷹島(8)	8
混迷の時代を開くザメンホフの人類主義 IV	10
活動報告「イエリンさんと一緒に作る楽しいお弁当」…11	11
四姑娘山写真だより(37)丹巴の市場	12
東西文明の比較(5)	14
フィリピン滞在記⑬大統領選挙とその後	16
雨の台湾、小旅行①九份で健行(ハイキング)	18
スリランカ紀行⑨「私の中のアーユルヴェーダ」	20
中国・義烏でパン作りの指導をするⅢ	22
映画紹介「シアター・プノンペン」(2014年)	23
‘わんりい’ 掲示板	24

「漢詩の会」「ボイストレの会」の案内は、17Pに掲載しました

【2016年6月定例会/7月号おたより発送日と場所】 ●場所：三輪センター・第三会議室

●6月定例会：6月14日(火) 13:30 ~

●7月号発送日：7月1日(金) 10:30 ~

※おたより発送日は、お弁当を持参ください

◆問合せ：☎042-734-5100(わんりい)